平成24年度　普及活動成果集

福岡県八女普及指導センター

平成25年3月

はじめに

八女地域は県内随一の農業地帯です。主要品目をＪＡ販売高（平成23年度）で見ると、52億円のイチゴをトップに、施設ギク・荒茶が30億円以上、ブドウ・ミカン・米・キウイフルーツ・ナスが10億～20億円、ナシ・トマト・ガーベラが3～10億円となっており、どれも県内の上位です。

また、認定農業者数は1,268名で、県内の21%（平成24年３月末）となっています。

当普及指導センターでは、平成24年度重点推進事項として次の５項目を定め、生産部会、ＪＡ、市町等と連携し、普及活動を展開しました。

1　雇用型経営をめざす園芸農家の育成と新規品目の生産振興による産地改革計画の目標達成
2　永続可能な土地利用型組織の法人化と法人の経営安定ならびに県育成品種の水稲「元気つくし」、小麦「ちくしＷ２号」の高品質・安定生産技術の確立
3　茶生産農家を主体として複合品目の導入拡大への支援による中山間地農業の振興
4　継続的な経営分析と関係機関と連携した経営指導体制の確立による農業経営の改善
5　青年農業者や女性農業者など地域を支える人材の育成

この「平成24年度普及活動成果集」は、重点課題、および一般課題として数年間取り組んできた活動の成果をご報告するものです。

さて、2012年７月の豪雨災害により、県内随一の農業地帯である八女では、中山間地域を中心に甚大な被害を被りました。八女普及指導センターでは、被災直後から災害状況の調査や技術・経営支援を行い、さらに県内普及指導センターからの応援も受けて人的復旧支援などを実施してきましたが、現地での本格的な復旧、復興はこれからです。

各成果に記載された経営改善や技術向上の手法、地域や産地の振興方策などの成果を参考にしていただき、今後の地域農業の振興、農家経営の改善にご活用いただければ幸いに存じます。

平成25年３月

福岡県筑後農林事務所　八女普及指導センター長　小代文明

目　　次

1　八女地域農業の概要　1

2　普及活動推進体制　2

3　普及活動成果

（1）雇用型経営を目指す園芸農家の育成と新規品目の生産振興　3

（2）永続可能な土地利用型担い手の育成　5

（3）茶生産農家を主体とした中山間地農業の振興　7

（4）八女の産地を支える担い手の育成　9

（5）「元気つくし」、「ちくしW２号」の安定生産　１１

（6）「採種農家」の経営安定　１２

（7）青年農業者の育成　１３

（8）イチゴの新規参入生産者の育成・支援　１５

（9）ガーベラ生産技術の改善　１７

(10) キウイフルーツの新品種導入と安定生産体制の確立　１９

(11) 安定継続可能な茶工場経営体の育成・確保　２１

4　平成２４年の気象　２３

5　表彰事業の受賞実績　２４

（有）グリーンワールド八女が天皇杯を受賞　２５

6　実証ほ一覧　２７

7　現地活動情報　２８

1　八女地域農業の概要

- 管内市町は、平成22年２月１日に八女市、黒木町、立花町、星野村、矢部村が広域合併し、八女市、筑後市、広川町の２市１町となった。
- 星野川、矢部川の流れに沿って東部から山間地、山麓地、丘陵台地、平坦地に区分され、耕地は標高５ｍから700ｍに存在する。
- 農産物等の流通条件については、東部地域と西部地域ではその利便性に大きな格差がある。西部地域では混住化が進み、東部地域は県下で最も人口減少率が高く集落機能の低下がみられる。
- 総農家戸数7,281戸で、うち販売農家4,920戸(2010年)。認定農業者数は1,268経営体(平成24年３月末)。40歳未満の青年農業者数は351名で、新規就農者数は23名である(平成23年度)。米麦等の生産組織数は28組織、うち18組織が農業生産法人である。また、園芸・畜産等では茶を中心に54農業法人が設立されている。
- 県内屈指の農業地域であり、ＪＡの取扱額は240億円である。主要品目は、イチゴ、キク、茶、米、ブドウ、ミカン、ナス、キウイフルーツ、ナシ等である。

農業生産の概況

			八女市	筑後市	広川町	合　計
耕地面積計(ha)			7,040	2,050	834	9,924
	うち　田		2,540	1,640	403	4,583
農業就業人口(人)(販売農家)			7,471	1,297	1,108	9,876
総農家数(戸)			5,575	997	709	7,281
	販売農家数		3,766	628	526	4,920
		主業	1,550	291	266	2,107
		準主業	679	102	90	871
		副業的	1,537	235	170	1,942

注）耕地面積は平成22年度耕地面積市町村別データ（福岡農政事務所統計部）
　　他は2010年農林業センサス

2　普及活動推進体制

（1） 課・係体制と活動内容　　※（　）は係員数。但し平成25年3月31日現在。

- センター長
  - 参　事
  - 地域振興課
    - 地域係（5）（うち庶務1）
      - ・担い手の経営体質強化
      - ・起業経営の強化と地産地消の推進
      - ・新規就農者等の育成・確保
    - 水田農業係（4）
      - ・土地利用型担い手組織の経営安定と法人化の推進
      - ・水稲の高温対策及び新品種「元気つくし」の栽培技術の確立と作付推進
      - ・高品質麦生産とちくしW2号の定着推進、大豆収量の高位安定と品質向上
      - ・水稲・麦・大豆種子の安定生産支援
      - ・耕畜連携による飼料用稲の安定生産支援
  - 野菜花き課
    - 野菜係（7）
      - ・イチゴ新規参入者に対する単収向上、定着のための関係機関と連携した支援
      - ・ナス新規生産者への生産性向上、収益確保への支援
      - ・トマト新規生産者、青年部への生産性向上、安定生産の支援
      - ・環境保全型農業志向農家を対象に有機農業等の実践や各種認証取得を支援
    - 花き係（4）
      - ・経営分析や相談会および現地指導を実施し、キク経営の改善を支援
      - ・経営分析、土壌管理技術などの向上によりガーベラ経営の改善を支援
  - 果樹特産課
    - 果樹係（4）
      - ・果樹産地改革計画に沿った生産販売体制や農家の経営体質強化に対する支援
      - ・かんきつの先進技術の確立と優良品種導入の推進
      - ・落葉果樹の生産性向上と経営改善の支援
    - 特産係（4）
      - ・茶工場の再編整備・法人化、経営分析を用いた経営改善を支援
      - ・玉露等の消費・生産拡大、省力生産技術導入や輸出茶産地化によるブランド化推進
      - ・栽培から加工まで安全・安心システム、持続的施肥・防除技術導入を推進

（2） 重点課題プロジェクト班の体制と活動内容

課　題　名	主な活動内容
雇用型経営を目指す園芸農家の育成と新規品目の生産振興（全域） H22～24	関係機関による推進体制を整備し、雇用型経営を目指す園芸農家の育成を図る。さらに、地域の雇用システムを整備することによって園芸農家の規模拡大を図り、園芸産地としての規模と活力を維持する。また、地区別に新規園芸作物の作付を推進する。
永続可能な土地利用型担い手の育成（全域） H24～26	農業法人では営農改善目標を設定し、改善への取り組みを支援しながら法人の生産面、経営面での人材育成と定着しやすい条件整備を進める。その手段のひとつとして園芸品目の導入定着を図るとともに、契約キャベツにおいては栽培技術の向上による安定収量の確保を支援する。任意組織では、法人化に意欲のある組織に対し関係機関と一体となり法人化へ向けて支援する。大規模農家では、経営相談会等により経営の強化に向けた支援を行う。
茶生産農家を主体とした中山間地農業の振興（八女市） H24～26	八女中山間地域の茶経営を主体とした認定農業者の経営改善を図るため茶との複合品目の導入や規模拡大を志向する農家に対し品目導入相談会や個別巡回相談を行い、品目導入や拡大による経営安定を支援する。また、地域で新しく振興の動きのあるユズ、わさび、ブルーベリー、切枝について生産販売を支援し産地育成を図る。さらに、女性グループで生産されている農産加工品の新たな顧客の掘り起こしによる販売額増加のため、付加価値の高い商品アイテムを開発する。

（3） 推進班体制の所内運営事項

班　　名	所内運営事項
青年農業者育成推進班	・4Hクラブ活動支援 ・農業後継者の育成方法の検討と推進

3　普及活動成果

雇用型経営をめざす園芸農家の育成と新規品目の生産振興

～園芸産地の維持と複合栽培で経営安定～

【要　約】

推進体制を整備し、「第４次八女広域農業振興計画」に雇用型経営推進を明記し、関係機関の合意形成を図った。研修会や経営分析を行い、雇用型園芸農家の育成を行った。雇用システムでは、ヘルパーの労働補完体制が整備された。また、新規園芸品目を推進し、栽培面積の増加となった。さらに、新規就農希望者の支援を行い、研修を開始した。

【目　的】

園芸農業の担い手は、高齢化により産地規模の縮小が懸念され、既存農家の規模拡大が必要となっている。

そこで雇用型モデル経営類型を作成し、既存のＪＡパッケージセンターやＪＡ無料職業紹介事業の課題を解決し、地域雇用システムを拡充強化する。

これらを通して雇用型経営を目指す企業的農家の育成を図るとともに、地域雇用システムを充実し、園芸産地の規模と活力を維持強化する。あわせて、複合経営志向農家、新規就農希望者等を対象に新規品目の生産を振興する。

１　活動対象の概況

ＪＡふくおか八女いちご部会（559 人）5,622 百万円、電照菊部会（173 人）3,731 百万円、かんきつ部会（540 人）1,598 百万円、キウイフルーツ部会（581 人）1,274 百万円等の園芸関係部会および園芸作物志向農家　　（平成 20 年度）

２　活動の内容等

（１）推進体制の整備

「雇用型経営推進地域協議会」、「八女地域雇用システム実証会議」と連携し、「第４次八女広域農業振興計画」に雇用型園芸農業の推進を図った。 また、「作物振興推進会議」による振興品目の推進を行った。

新規参入については、「八女地域農業振興推進協議会　農政企画会議」で検討を行った。

（２）雇用型経営への誘導と地域雇用システムの拡大

雇用型経営誘導では、雇用型経営研修会（写真）を実施し、雇用型志向モデル対象農家 37 戸の農家経営分析を行った。また、ＪＡ無料職業紹介所による農業ヘルパー雇

例の調査、農業ヘルパーを対象と

（３）新規園芸品目の生産拡大

振興品目の導入を推進するために全地区で８、２月に相談会を開催した。

また、５月に新規就農希望者等を対象にした栽培相談会を開催した。

写真　雇用型経営研修会

３　活動の成果

（１）推進体制の整備

「雇用型経営推進地域協議会」、「作物振興推進会議」による関係機関の役割分担が図られ、「第２次八女地域農業振興計画」に雇用型経営推進を明記し、合意形成をした。「八女地域農業振興推進協議会　農政企画会議」は、新規参入の情報交換の場として整った。

（２）雇用型経営への誘導と地域雇用システムの拡大

雇用型園芸農家は８戸が新たに育成。JA 無料職業紹介所の強化が図られ、労働補完体制が整備された。また、イチゴパッケージセンター１か所が新設された。

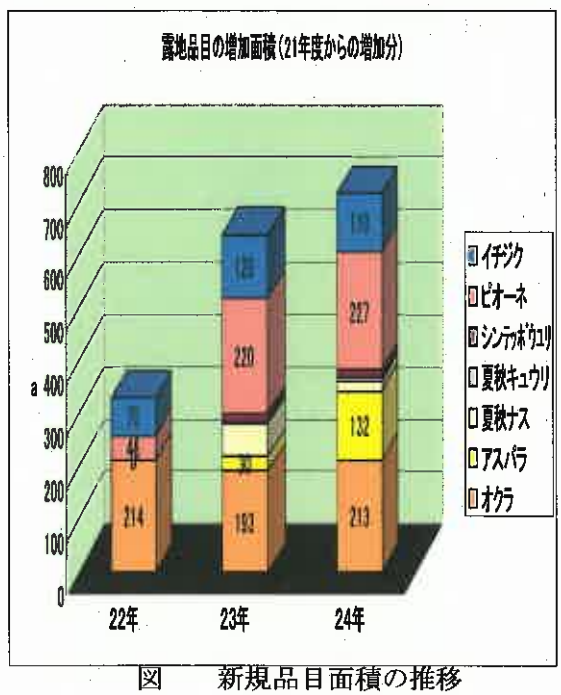


図　　新規品目面積の推移

（３）新規園芸品目の生産拡大

平成 22 年からの新規導入品目面積は、7.2ha 増加した（図）。品目ではオクラ、アスパラガス、ピオーネ、イチジクが伸びた。また、新規参入希望者６名が農家研修を開始した。

４　今後の見通し又は課題

この課題に引き続き、園芸産地維持を課題とし雇用型経営育成と新規品目拡大の２本柱を推進する。

（１）雇用型園芸農家の育成・・雇用型経営志向農家の重点化（意向調査、栽培体系・経営支援等）を図る。

（２）新規作物導入農家及び新規就農者の継続的育成と定着化・・栽培技術、資金や事業活用支援を行う。

課題名：雇用型経営をめざす園芸農家の育成と新規品目の生産振興　平成 22～24 年度

永続可能な土地利用型担い手の育成

～法人の経営安定と任意組織の法人化推進～

【要　約】

法人の経営安定を図るため、園芸品目導入を推進し、平成24年度新たに4法人がキャベツ、タカナの作付けを開始した。

筑後市では法人化意向のある任意組織等に支援を行い、4法人が設立した。

八女市では1組織に法人設立準備委員会が設置された。

地域の担い手となる個別大規模農家の経営強化に取り組んだ。

写真　法人による「タカナ」の移植

【目　的】

担い手の減少、高齢化が進む地域では将来の担い手の確保が喫緊の課題である。八女地域では、普及指導センターと関係機関・団体が連携して任意組織等の法人化を進め、地域の永続的な担い手となるよう支援している。今後も、法人化及び法人の経営改善（目標設定、経営分析診断、経営の安定化）を支援し、担い手育成を図る。

また、地域の担い手となる大規模農家を育成するため経営の強化を図る。

1　活動対象の概況

（1）法人等

平成25年2月末現在

市町別	農事組合法人					集落営農組織				
	組織数（経営体）	構成員（戸）	水稲	麦	大豆（ｈａ）	組織数（経営体）	構成員（戸）	水稲	麦	大豆（ｈａ）
八女市	－	－	－	－	－	2	464	56	202	67
筑後市	18	827	491	760	337	6	153	87	161	68
広川町	－	－				2	23	－	47	－
合計	18	827	491	760	337	10	640	143	410	135

（2）大規模農家　　水稲作付面積5ha以上　　１５戸

2　活動の内容等

（1）法人の経営安定

法人の新たな収入源確保のため、地域の女性や高齢者等の労働力を活用した野菜作り等、園芸品目の導入を推進した。推進にあたっては、作付検討会や栽培指導を実施した。園芸品目を取り入れている法人には、ほ場巡回等を実施し助言指導を行った。

（2）法人化の推進

法人化意向のある任意組織毎に担当者を配置し、土地利用型集落営農組織が目指す法人モデルを提示した。また、法人化の手続き、利用権設定作業支援等、関係機関と一体となって集中的な支援を行い法人設立へと誘導した。

（3）大規模農家の経営強化

大規模農家のリストアップを行い、経営相談および技術改善支援を行った。

3　活動の成果

（1）法人の経営安定

筑後市の 4 法人がキャベツやタカナなど野菜の作付けを開始し、2 組織は契約キャベツの目標収量を達成した。18 法人のうち 13 法人が園芸品目を取り入れている。

（2）法人化の推進

任意組織のうち、筑後市では 4 組織が法人となり、八女市では 1 組織が法人設立準備委員会を設置した。

（3）大規模農家の経営強化

対象となる農家が法人の構成員であるときは、組織対応時に生産技術に係る支援を行ったが、個別の経営改善目標の達成には課題が残った。

4　今後の見通し又は課題

（1）法人の経営安定

野菜を導入した法人のうち、技術の未熟さや管理が十分でないために目標収量を達成していない組織がある。収量性向上には適期移植や適正な栽培管理の実践が必要である。また、キャベツを作付けしている法人では連作による病害の発生がみられるほ場があり、ほ場のローテーション等の対策が必要である。これらの課題に対処するため、今後も栽培技術及び管理等の指導を継続する。

（2）法人化の推進

準備委員会が設置された任意組織及び法人化意向を示している任意組織に対しては、関係機関・団体と連携し法人設立への支援を行う。

（3）大規模農家の経営強化

大規模農家に対しては、認定農業者経営改善支援、他の係との連携活動を通して、個別の課題解決支援を行う。

茶生産農家を主体とした中山間地農業の振興

～複合品目導入拡大等への支援～

【要　約】

茶経営を主体とした中山間地域の認定農業者(126人)にアンケートを実施し、その中の経営改善志向農家や情報提供希望者60名に対し、作成した複合品目導入16モデルの紹介や複合品目拡大志向農家の支援を行った。またユズ、ブルーベリー、ワサビ、切り枝の生産量拡大や農産加工品の開発を支援した。

【目　的】

八女地域中山間地域には、茶生産農家が多く、荒茶単価の低迷により、経営が厳しくなっている。そこで、茶農家への複合品目の導入・拡大や八女市矢部村、星野村で新しく振興の動きのある品目の育成、農産物加工品の充実を通じ、総合的に茶農家の経営安定と中山間地農業の振興を図る。

1　活動対象の概況

表１　経営を主体とした経営改善志向農家（60名）

市町村名	黒木町	上陽町	矢部村	星野村	合　計
人　数	14	14	5	27	60

表２　ワサビ、ユズ、ブルーベリー、切枝研究会（120名）

品目名	ワサビ	ユズ	ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｰ	切り枝	合　計
人数	8	21	33	58	120
面積	47.5a	239a		430a	

・農村女性ｸﾞﾙｰﾌﾟ星野清流 1組織（16人）平均年齢65歳 55～65才未満8人 65才以上 8人

2　活動の内容等

（1）茶経営を主体とした認定農業者の経営安定

茶との複合品目導入モデルを作成し品目導入相談会を行った。経営改善志向農家60名全員に対し個別に面談または電話聞き取りを行い、野菜、花、果樹等の導入希望農家に対し栽培の紹介やワサビ栽培希望者に現地ほ場での説明を行った。

写真１　ワサビの現地説明

（2）振興品目の生産販売支援

生産販売検討会や巡回指導を行い、生産量の増大を支援した。

ユズは生産安定指導や矢部村で販売対策会議を開催し、生産安定を目指した幼木期の管理を中心に支援を行った。

ブルーベリーは、星野村のJA研究会で共販の取り組みを進めた。出荷規格の検討、周知の徹底など集出荷体制を整えた。

ワサビは、防除暦の提案や矢部村の葉取り作型収穫調整などの検討を行い、栽培技術の安定化新作型による販売量の拡大のための支援を行った。

切り枝は、星野村で発生が確認された赤枯れ症状を呈す病害に関する講習会や、枝ぶりの良い生産物を増やすための剪定講習会を行い、高品質生産実現を支援した。

写真２　ニオイヒバの現地検討

写真３　ユズの現地検討

（３）農産加工品の開発

加工品の互評会、開発技術研修会を開催。展示商談会へ参加した。

３　活動の成果

（１）茶経営を主体とした認定農業者の経営安定

北部豪雨災害以前は面談60名の中で複合品目取り組みを具体的に検討する農家が14名いたが、被災の現況復帰が優先となったことから、露地野菜新規導入農家1名とイチゴの規模拡大農家２名の支援となった。

茶との複合経営が可能な品目の 16 導入モデルを作成した

（２）振興品目の生産販売支援

ユズは生産安定を目指した幼木の管理指導を行い、幼木の生育が進み一部の園では結実が始まった。2.0tの目標に対し2.4t（青ゆず1.7t、黄ゆず0.7t）の生産であった。

ブルーベリーはJA研究会で共販の取り組みを進め、加工用を含めた出荷量は増大出来たが、青果0.3tの目標に対し0.1tの生産であった。

ワサビはJA加工場での加工、販売が実施されることにより、新しい収穫部位（葉、茎）も出荷できることとなったが、6.8ｔの目標に対し3.1ｔの生産であった。

切り枝は、ニオイヒバ等の出荷量が水害の影響で減少したが、高品質生産の指導を徹底した結果、単価の大きな下落は避けられた。50万本の目標に対し44万本の生産であった。

（３）農産加工品の開発

新規農産加工品目として、「なすのからし漬」「しいたけのからし漬」の２品目を開発した

４　今後の見通し又は課題

農家経営改善志向農家への振興相談会や個別面談により複合品目等導入を支援する。
ユズは組織力の強化と矢部村のユズとして特徴づける商品づくりの支援。
ブルーベリーは生果生産の拡大、加工用果実の流通経路の検討を JA 研究会と行う。
ワサビは出荷調整作業の労力負担軽減による安定生産で出荷量を確保する。
切り枝は高品質化並びに需要に応じた生産に向けた支援を継続する。
農産加工品開発は販売方法やパッケージの検討、新規品目の開発を進める。

課題：茶生産農家を主体とした中山間地農業の振興　平成 24 年～26 年

八女の産地を支える担い手の育成

～経営改善に向け、経営相談会・研修会等を充実～

【要　約】

認定農業者の経営改善計画作成時の経営相談の実施、経営研修会開催などを通して経営改善を図った。

新規就農希望者への相談にあたっては、相談カードの様式を統一し、相談者本人の了解を得て関係機関・団体と情報を共有化した。その結果、相談から就農までの継続的な支援を円滑に行えるようになった。

【目　的】

認定農業者の目標所得の達成に向けた経営指導を充実させることで、農家経営の改善を図る。

新規就農希望者に対する相談体制を整え、八女地域の農業を担う人材の育成・確保を図る。

1　活動対象の概況

（1）認定農業者　　1,268 経営（平成 24 年 3 月末日現在）

（2）新規就農相談件数　　40 件（平成 24 年度実績（平成 25 年 2 月末日現在））

（3）青年就農給付金（準備型）　6 件（平成 24 年度実績）

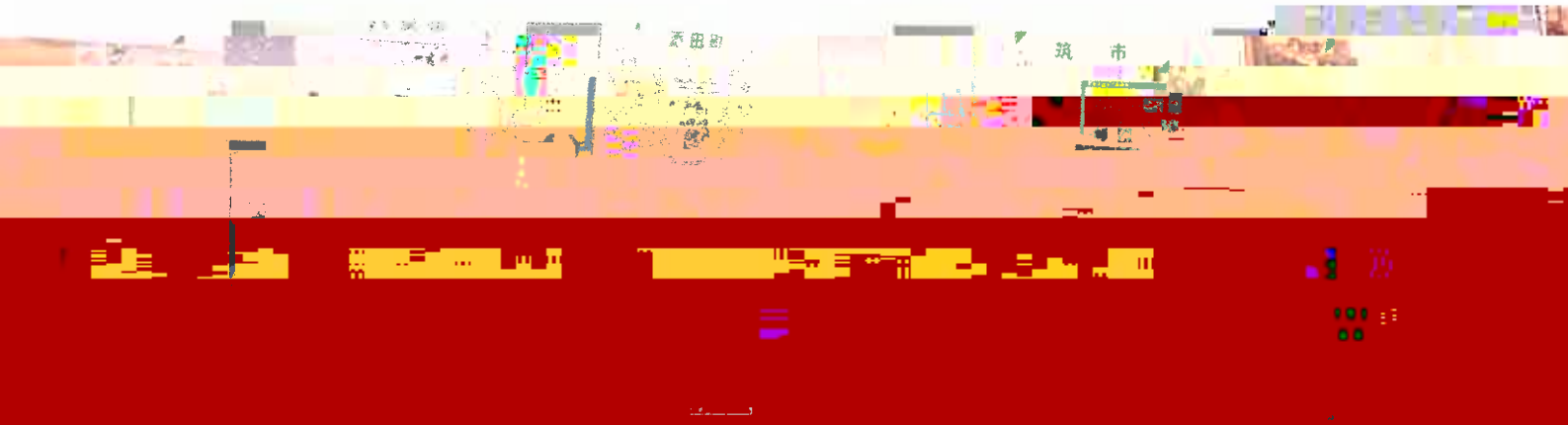


写真 1　八女市相談風景　　写真 2　筑後市相談風景

2　活動の内容等

（1）市町村基本構想目標所得達成に向けた取り組み

認定農業者については、経営改善計画作成支援時の個別経営相談や経営研修会を通じて経営改善に向け支援した。希望者に対しては、決算書や生産販売データをもとに経営分析を行い、分析結果をもとに経営指導を実施した。

また、八女市認定農業者連絡協議会等の場を活用し、補助事業の紹介と融資制度についての情報を提供した。

（２）新規就農希望者に向けた取り組み

八女市と筑後市は、「地域就農支援体制構築促進事業」に取り組み、全国レベルの「新・農業人フェア」や、県主催の「新規就業セミナー・相談会」に参加したので、普及指導センターも相談会に出席し人材確保を支援した。

相談会で特に就農意欲が高かった就農希望者に対し、後日個別相談会を実施し、県農業大学校等の研修機関や先進農家等の研修先の紹介、青年就農給付金の計画作成支援を行った。

また、経営開始にあたっては関係機関と連携し、補助事業や融資制度の活用等、本人の意向に添えるよう提案を行った。

3　活動の成果

（１）市町村基本構想目標所得達成に向けた取り組み

認定農業者経営改善計画作成支援会において、データをもとに経営改善指導に取り組み、基本構想目標所得の達成率が10%向上し、52%になった。

認定農業者の基本情報データベース（２市１町）の整備に取り組み、今後の計画的な指導に活用できるようなった。

また、認定農業者から寄せられる資金相談に対処するため、昨年まで個々に実施していた融資相談会を月一回に変更し、関係機関・団体同席のもと行うようにした。

その結果、融資希望者は、制度資金種目の選択が円滑にできるようになり、平成24年度は約60件の相談を実施。経営改善に向け約30件の資金計画の作成支援を実施した。

（２）新規就農希望者に向けた取り組み

新規就農相談については、２月末現在で40件の相談を受けた。本年度途中から、就農相談カードの様式を統一し、就農希望者がどこの関係機関・団体で相談しても必要な情報が収集されるようになり、活用が可能になった。

青年就農給付金（準備型）については、管系機関・団体と連携し研修計画の作成等について支援。うち６件の研修計画が認定され、現在、給付金を受給しながら先進農家での研修に取り組まれている。

4　今後の見通し又は課題

認定農業者には、経営改善に向けた提案を継続的に行う。

新規参入希望者に対しては、今後とも関係機関・団体との連携を図り、就農相談や研修先の紹介、早期の経営安定に向けた支援を行う。

平成25年度中には、平成24年から青年就農給付金（準備型）の申請を行った就農希望者が先進農家研修を修了するため、経営開始と早期の経営安定に向けた支援を行う。

課題名：八女の産地を支える担い手の育成　平成23～24年度

「元気つくし」、「ちくしＷ２号」の安定生産

～実需者ニーズに合った新品種の定着～

【要　約】

水稲「元気つくし」は、栽培面積318haに拡大、品質は一等米比率割合は98.9%と高く推移した。小麦「ちくしＷ２号」タンパク質含有率は11.6%となり、98haを栽培している。

【目　的】

県育成新品種水稲「元気つくし」、ﾗｰﾒﾝ用小麦「」ちくしＷ２」の高品質安定生産を図る。

1　活動対象の概況

（1）水稲「元気つくし」

ＪＡふくおか八女「元気つくし」研究会の八女市、筑後市、広川町の３支部。

（2）ラーメン用小麦「ちくしＷ２号」

農事組合法人『百世』、農事組合法人『もちの郷しもつま』。

2　活動の内容等

（1）「元気つくし」安定生産のため座談会、栽培講習会、現地検討会（穂肥）、栽培管理情報（生育状況、水管理、除草、穂肥、適期収穫）の提供、展示ほ設置（施肥法）を行った。

（2）「ちくしＷ２号」安定生産のため栽培講習会、追肥講習会、栽培管理情報（播種適期、追肥、適期収穫）の提供、展示ほ設置（ﾀﾝﾊﾟｸ質含有率向上、雑草対策）を行った。

3　活動の成果

（1）水稲「元気つくし」の定着

栽培面積278haから318haに拡大、品質は一等米比率割合は98.9%と高く推移した。

（2）小麦「ちくしＷ２号」の品質向上

タンパク質含有率は11.6%となり、栽培面積は98haを維持している。

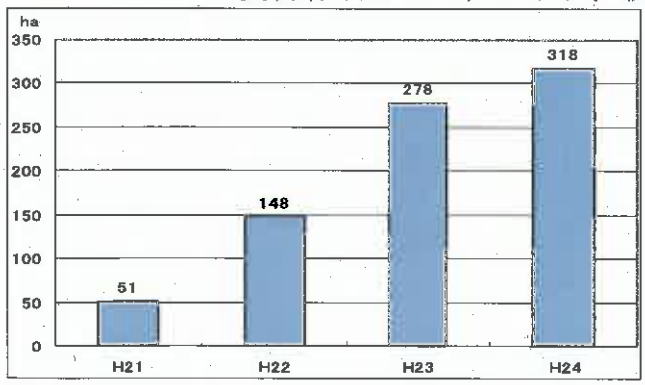


図１「元気つくし」栽培面積

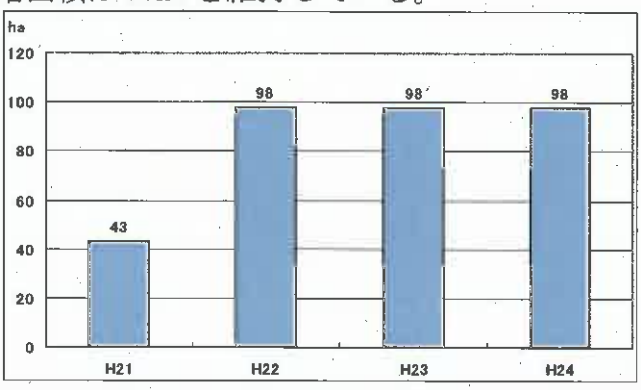


図２「ちくしＷ２号」栽培面積

4　今後の見通し又は課題

（1）水稲「元気つくし」：安定栽培及び栽培面積を330haに拡大する。

（2）ラーメン用小麦「ちくしＷ２号」：ラーメン用に適する原麦タンパク質含有率12.0%の確保及び栽培面積を拡大する。

課題名：「元気つくし」、「ちくしＷ２号」の安定生産

「採種農家」の経営安定

～米・麦・大豆種子の安定供給～

【要　約】

平成24年産の水稲種子は合格率97.1%で生産量も計画比98.7%であった。また、麦及び大豆種子は全量合格で生産量も計画比120%以上が供給できた。

【目　的】

県産水稲・麦・大豆の品質向上と安定生産のため、合格種子の安定供給を図る。

1　活動対象の概況

ＪＡふくおか八女採種部会(平成24年産)

		管内		県全体	管内／県全体
		生　産　者	面積(ａ)	面積(ａ)	面積(%)
水　稲		104名	8,827	29,885	29.5
麦類	小麦	77名、２法人	16,780	49,500	33.9
	大麦	４名、２法人	3,550	16,020	22.2
大　豆		16名、１法人	2,000	18,400	10.9

2　活動の内容等

採種農家の経営安定を図るため、栽培基準検討会、栽培講習会、現地検討会、研修会を開催し、管理技術情報の提供や展示ほの設置を行った。

3　活動の成果

（1）水稲種子

生産量は、計画量 341,020kg に対して実績336,120kg と計画比98.2%で、合格率は97.1%であった。

（2）麦類種子

生産量は、計画量 491,470kg に対して実績592,230kg と計画比120.5%で、合格率は100%であった。

（3）大豆種子

生産量は、計画量32,000kg に対して実績39,600kg と計画比123.8%で、合格率は100%であった。

写真　　水稲種子の検査

4　今後の見通し又は課題

水稲種子については、計画量の100%以上の達成と種子として全量合格を目ざす。

課題名：「採種農家」の経営安定 平成23～24年度

青年農業者の育成

【要　約】
新規就農者や青年農業者を対象に青年農業士を講師とした研修会と意見交換会を開催した。就農希望者に対しては随時、就農相談への対応を行い各種情報を提供した。また、青年農業者クラブ（４ＨＣ）に対しては地域とのつながりを意識したプロジェクト活動の実施などを支援した。さらに、「農業リーダー育成塾」を開催し、八女地域の将来を担う農業者の育成を図った。
その結果、新規に23名が就農（うち新規学卒者８名）した。また、４Ｈクラブ員の意欲が向上し、プロジェクト活動をはじめとした各種活動が活発化した。

【目　的】
各種研修会の開催や青年農業者自らの活動への支援により、将来の農業を担う青年農業者や農業リーダーを育成する。

１　活動対象の概況

（１）新規就農者 41 人(H21)、23 人(H22)、19 人(H23)
（２）新規就農希望者
（３）八女地区青年農業者クラブ（八女地区４ＨＣ）12 人(H24)

２　活動の内容等

（１）新規就農者の育成
新規就農者調査を実施し、新規就農者の実態を把握するとともに青年農業士を講師とした研修会と意見交換会を開催し、農業者同士の仲間つくりや資質向上を支援した。
また、新規就農希望者からの相談に随時対応し、就農に関する情報提供を行った。

写真１　新規就農者研修会
（班別ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝの様子）

（２）青年農業者の育成支援
４ＨＣを対象に地域とのつながりを意識したプロジェクト活動への取り組みを進めた。農業リーダー育成塾では農業に限らず地域で活躍する人たちの経験談を聞いたり意見交換を通じて視野の広い経営者となるべく研修会を開催し、将来のリーダー育成を図った。
また、南筑後地域の青年農業者との交流を図るため農業リーダー育成塾への参加呼びかけや技術交換大会の共同開催を支援した。

写真２　４HC プロジェクト活動支援１
（黒木町４HC, 園児と食育活動）

写真３　４HC 活動プロジェクト支援２
（八女市４HC, 地域の祭りであまおうｱｲｽ販売）

写真４　農業リーダー育成塾
（久保田氏（写真中央）を囲んで）

３　活動の成果

（１）新規就農者の育成

本年度および過年度からの継続した取り組みの結果、新規に 23 名が就農（うち新規学卒者８名）した。

（２）青年農業者の育成支援

クラブ員のプロジェクト活動は自発的活動として定着しつつあり、その他の４ＨＣ活動も活発化した。具体的なプロジェクト活動は単なる地域のまつりへの参加から、自らの産物を使った加工品「あまおうアイス」の販売へと発展した。また、地元幼稚園・保育園児への食育活動も３年目となり、準備運営への主体的参加が進んだ。

４　今後の見通し又は課題

新規就農者や青年農業者の育成確保のため、関係機関と連携を強め、新規就農者調査を継続するとともに、新規就農者研修会や農業リーダー塾を開催する。４ＨＣに対しては新規加入の促進およびプロジェクト活動の内容充実を支援する。就農希望者に対しては提供する情報の整備と内容充実を図る。

課題名：青年農業者の育成　平成 24～26 年度

イチゴの新規参入生産者の育成・支援

～みんなでイチゴ新規栽培者を育てよう！～

【要　約】

新規参入３年以内のイチゴ生産者を対象とした基礎的な技術研修会の開催と定期巡回指[illegible]

【目　的】

近年、イチゴへの新規参入者が増えている。また、他品目からの品目転換もあり、短期間に技術を習得し、収益を上げてくことが急務である。そこで、新規参入者に基礎的な研修会等を実施し、イチゴの基礎技術を習得させ経営安定化を図る。

１　活動対象の概況

（１）イチゴ栽培３年未満の新規参入者９経営体14名

２　活動の内容等

（１）栽培技術の習得支援

座学としては、基礎技術研修会（写真 1）を普及センターで開催した。内容は、肥料、農薬、土壌、イチゴの生理・生態、年間の管理ポイントについて講義を行った。

また、研修会終了時にはＣＳアンケートを取り、次回への研修会に反映させた。

（２）参入後の定着支援

新規参入者に対して、月 1～２回の巡回（写真 2）を実施し、研修会後の管理作業確認や個別指導を行った。

また、個人ごとの年間計画策定のため、経営・栽培管理相談会を行い、今後の方針等を検討した。

写真１　基礎技術研修会

写真２　個別巡回支援

3　活動の成果

（1）栽培技術の習得支援

基礎技術研修会は、３回に分けて適期毎のポイントを重点的に講義し、その中の資料作成では素人でも分かるように写真等をふんだんに取り入れる工夫を行った結果、受講者からは分かりやすく、かなり栽培技術等が理解できたとのＣＳ（表）評価を受けた。このことにより受講者は基礎技術習得やイチゴの知識向上が図れた

表　全員からのＣＳアンケート回答

質問内容　/　回答	Ａ：わかりやすい	Ａ：簡単すぎた	Ａ：難しすぎた
Q1：イチゴの生理・生態	**77%**	0%	23%
Q2：イチゴの病害虫	**62%**	**15%**	23%
Q3：２番果、作型	**100%**	0%	0%
Q4：農薬の系統について	**90%**	0%	10%

（2）参入後の定着支援

担当者毎に新規就農者を張り付け、個別巡回指導の重点化と充実を行った結果、９経営体すべて２４年度のイチゴの栽培では、順調に生育し収穫でき、定着支援ができた。

また。ＪＡ等の関係機関による情報の共有化を図り、担い手育成の体制が整った。

4　今後の見通し又は課題

継続的な研修会の実施

課題名：イチゴ新規参入者の育成・支援　平成 24～26 年度

ガーベラ生産技術の改善

～土壌消毒法の改善による安定生産技術の確立～

【要　約】

ガーベラ生産においては、株枯れ症の発生が収量減少の一因となっている。そこで、効果的な土壌消毒方法を検討した結果、作畦時にクロルピクリン錠剤を処理することにより、株枯れ病の発生を減少させることができた。

【目　的】

効果的な土壌消毒方法を確立し、株枯れ症の発生を減少させることにより、ガーベラ経営の改善を図る。

1　活動対象の概況

[illegible]

員

[illegible]

[illegible]　千円

2　活動の内容等

福岡県のガーベラ生産量は現在、全国２位であるが、株枯れ症の発生により、収量が減少している。このため、株枯れ症の発生を抑制するための効果的な土壌消毒方法を検討した。

検討方法　①試験区：作畦時に、クロルピクリン錠剤を処理
　　②対照区：クロルピクリン液剤を処理後、作畦

3　活動の成果

ガーベラ部で実施している全ほ場巡回の折、特に株枯れ症の発生が多いほ場が見られた。このため、そこを試験ほ場とし、部全体で土壌消毒方法の検討を行うこととした。その結果、試験区の株枯れ率は 5.4%と、対照区よりも低く抑えることができた（表１）。

試験区では前年度に株枯れ症が多発したが、土壌消毒法を改善した結果、安定した生産が行われており、前年に比べ収量増加となった。

表１　土壌消毒方法の違いがガーベラの株枯れ率に及ぼす影響

	全株数（株）	株枯れ数（株）	株枯れ率（%）
試験区	10400	557	5.4
対照区	8900	1250	14.0

注1）試験区：作畦時に、クロルピクリン錠剤を処理（ガス抜きなし）。
注2）対照区：クロルピクリン液剤を処理後、作畝（ガス抜きあり）。
注3）試験区の株枯れ数は実測値。対照区は面積からの推定値。
注4）処理期間：平成24年5月15日～6月5日

写真１　会員での試験区設定

写真２　左：対照区　右：試験区

４　今後の見通し又は課題

[redacted]

キウイフルーツの新品種導入と安定生産体制の確立

～「レインボーレッド」の導入と高品質安定生産～

【要　約】

八女地域のキウイフルーツの産地振興および生産者の規模拡大を図るため、早生品種「レインボーレッド」の導入と高品質栽培に向けた支援を行った。また、主力である「ヘイワード」とともに、大玉・高品質生産を維持するため、適正着果の指導や枝別環状剥皮による果実肥大促進効果について検証し、技術の普及を行った。その結果、「レインボーレッド」は栽培面積が 30ha、生産量が約 500 t まで増加した。「ヘイワード」も、糖度 15 度以上である「博多完熟娘」（はかたうれっこ）の割合が 90%以上となり、高単価を維持することができた。

【目　的】

新品種「レインボーレッド」は高単価で販売されることと「ヘイワード」との労力分散が可能であることから、生産農家が増加している。このため、生産量拡大と品質向上を図る。

「ヘイワード」は、樹勢衰弱による立枯症や病害虫被害により生産性低下が問題となっている。そこで、有効な対策を確立し、収量の高位平準化を図る。

写真「レインボーレッド」

1　活動対象の概況

ＪＡふくおか八女キウイフルーツ部会
部会員数 563 名　栽培面積 225.6ha
生産量 4,377t（平成 24 年度実績）
販売額 17.3 億円（平成 24 年度見込み）

2　活動の内容等

（1）新品種の生産拡大

ア　「レインボーレッド」において課題となっていた不良系統の確認および淘汰に向けた高接ぎ更新の実施。

イ　肥大促進に向けた環状剥皮や適正摘果の検証と講習会における技術普及を行った。

（2）「ヘイワード」の生産性向上

ア　現地巡回指導、時期別の管理講習会の開催、防除情報の提供等を実施し、生産量の確保に努めた。

イ　展示ほの設置と調査結果の活用

枝別環状剥皮や適正摘果実施園の設置による実証結果をもとに講習会等を通じて技術の普及を行った。

3　活動の成果

（1）　新品種の面積・生産量の拡大

「レインボーレッド」の栽培面積が 30ha に拡大するとともに、不良系統を淘汰することで生産量が増加した。また、適期摘果や環状剥皮の指導により大玉の高品質果実の割合が 30%に増加し、生産量の大幅な増加にもかかわらず販売単価は高位（約 600 円/kg）を維持している。

（2）　果実品質の向上

「ヘイワード」について、環状剥皮や適正な棚面管理によってブランド（博多甘熟娘・糖度 15 度以上の青果）率が 90%以上となり、単価の維持に貢献した。

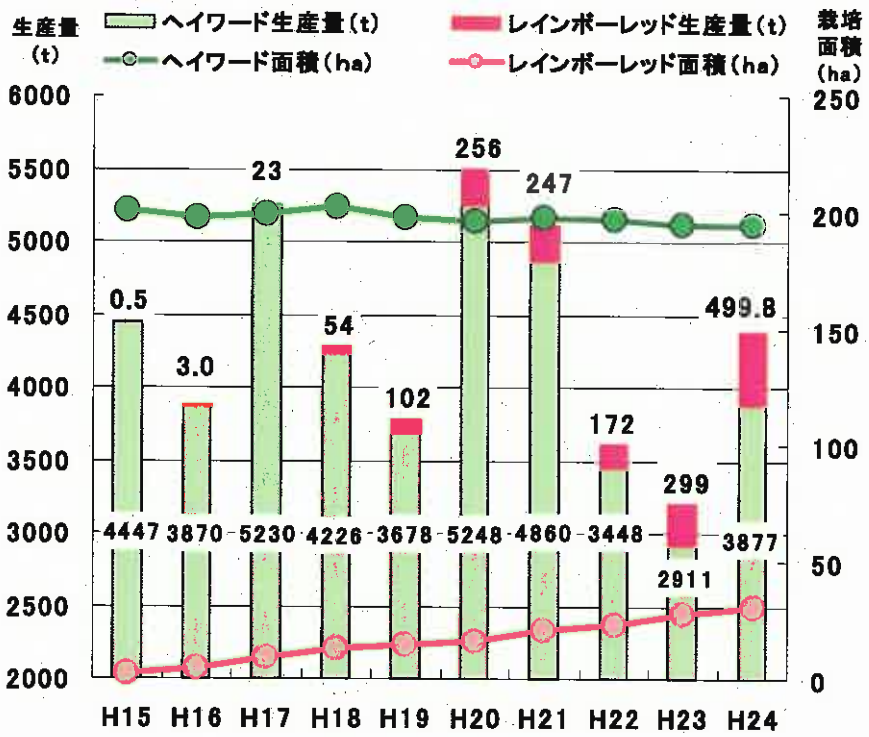


図１　品種別栽培面積と生産量の推移

4　今後の見通し又は課題

（1）　販売力の高い果実生産

「ヘイワード」の中位階級の底上げ

「レインボーレッド」の販売戦略に対応した生産

魅力ある商材となる新品種・新系統の探索と導入の検討

（2）　安定生産による産地評価のさらなる向上と生産者の経営安定

立ち枯れ、連作障害対策、霜害対策、受粉対策

かいよう病の侵入防止と対策

課題名：キウイフルーツの安定生産体制の確立　平成 22～24 年度

安定継続可能な茶工場経営体の育成・確保

製茶工場の経営の診断とカルテの作成

【要　約】

製茶工場の経営相談会を開催し、工場毎の経営状況の診断カルテを作成した。カルテを基に高齢化に伴う生葉処理量の減少や高い加工経費、製茶機械の老朽化といった山間地茶工場の抱える問題点を整理して短期・中期の持続性リスクを把握し、工場をタイプ別に分類し、改善提案の準備を整えた。また、省力高性能茶加工機械導入の支援を行った。

【目　的】

リスクが増大している茶工場経営の問題点の実態把握を行い、価格変動リスクに備えた収益管理や財務改善等の経営能力の向上を図る。また、省力高性能茶加工機械を導入し、生産コスト低減と品質向上を図りながら持続可能な茶工場経営体を育成する。

1　活動対象の概況

（1）茶工場経営体 141 戸（法人 19、個人 72、共同 50）

2　活動の内容等

（1）経営改善の推進

経営相談会は、黒木、上陽地区の JA 支店単位で実施した。スムーズに進行するよう、科目まで記載した収支決算書と生葉処理量、加工料金、借入金明細の様式を工場長宛に送付し、事前に記入したものを持参してもらった。当日は組合員名簿も準備し、年齢構成や脱退状況、将来の見通し、豪雨災害の被害状況など工場経営を含めて JA 指導員と連携して聞き取りした。

なお、法人工場については個別に日程を調整し、決算書を基に聞き取り調査した。

（2）省力高性能茶加工機械の導入

省力高性能茶加工機械の導入を計画した工場に対して適正導入を図るため、資金計画樹立、補助事業の円滑活用、資金調達等のソフト面での支援を行った。

3　活動の成果

（1）経営改善の推進（荒茶加工コストについて）

決算書から生葉 1kg あたりの処理にかかる動力光熱費と人件費を算出し、生葉処理量と合わせて整理した。他の工場と比較することで、処理する生葉を確保する必要性や、動力光熱費と人件費にどの程度問題があるのかを分かりやすく示すことが出来た。

また、大型再編工場の合葉加工と個別加工の共同工場の間に大きな違いがあることも一目で示すことが出来、茶工場経営に対する意識の向上を図ることが出来た。

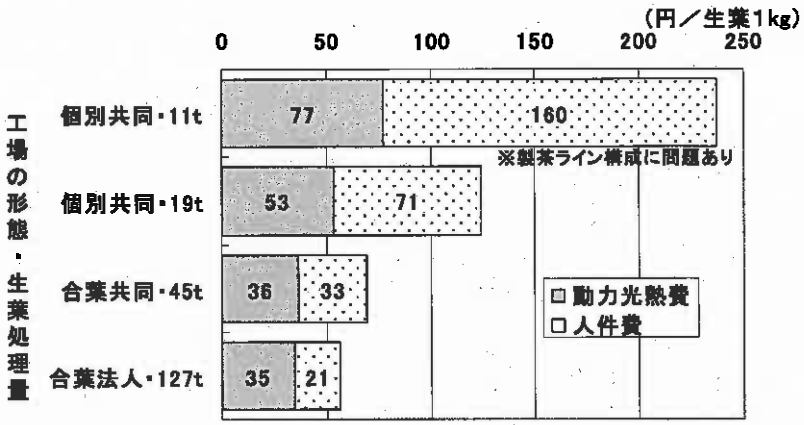


図１　加工にかかる動力光熱費と人件費

（２）経営診断カルテによる持続性リスクの把握と工場のタイプ分け

工場の運営形態、生葉処理量、経営状況、経営課題とその特徴から、短期・中期の持続性リスクを診断した。また、機械の老朽化、組合員の高齢化、豪雨災害の影響を合わせて工場をタイプ別に分類することで、工場の再編を含む今後の工場経営指導の基礎を整理することが出来た。

表１　平成24年茶工場経営診断カルテ（例）

工場名		経営主体	組織形態	再編工場	H24 生葉処理量 kg	加工経費	内 動力光熱費	内 労務費	H24 主な経営課題と特徴	災害の影響	持続性リスク 当面	持続性リスク 中期	タイプ
1	A	共同	任意組織		5,500	1,100,000	330,000	570,000	早摘みの影響もあるが、処理量が減っている。伝玉でないと採算に合わない。機械が老れて更新が必要になると赤字化。	被害なし	×	×	D
3	B	共同	任意組織		10,800	2,100,000	460,000	980,000	伝統本玉露が多い。前年と生葉量変わらず、来年も現状維持の見込み。	被害なし	△	×	D
4	C	共同	農事組合法人	○	127,000	12,700,000	4,410,000	2,070,000	高齢、兼業、零細が多い、生葉品質が劣る、加工技術が劣る	茶園の10%程度が被害	○	△	B
5	D	共同	農事組合法人	○	142,400	13,500,000	4,440,000	4,300,000	過去最高の生葉処理量だが、来年は減る	茶園の10%程度が被害	◎	○	A
7	E	共同	任意組織	○	140,000	14,700,000	6,830,000	3,760,000	収入、繰越金ともに良好。3年以内に法人化予定	茶園被害はあるが、成園化した茶園の収穫がカバーすると思われる	○	○	A
8	F	共同	任意組織		66,000	5,300,000	2,310,000	1,550,000	H25で借入金返済が終わるが、機械は老朽化。更新のための自己資金積み立てが必要	組合員は被害面積分を茶園借入で補ったが、組合員外の収穫が減少するだろう	○	△	B

<工場のタイプ>　A：良好　B：中期計画の見直しが必要　C：再編を含め計画の検討が必要　D：再編を前提にした計画の検討が必要

4　今後の見通し又は課題

生葉処理量の少ない共同工場においては、確保できる生葉の量が今後も減少し、経営状態はさらに悪化することが予想されるため、経営相談会を継続して実施し、茶工場の今後の運営について検討を行う。

課題名：安定継続可能な茶工場経営体の育成・確保　平成22～24年度

4　平成 24 年の気象

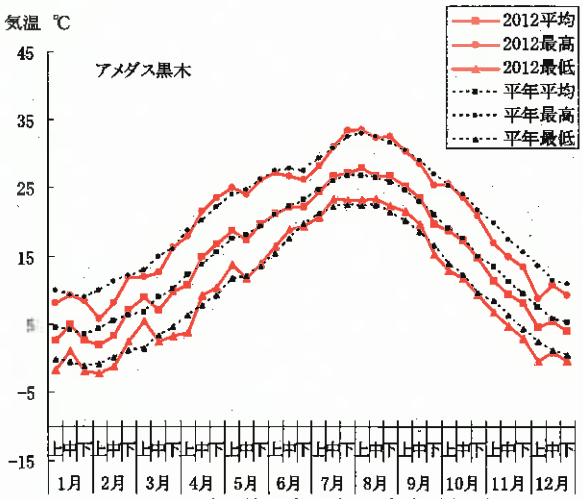
○ 今年の気象概要は春の前半まで低温傾向、春の後半から秋の前半まで高温傾向、秋の後半から初冬まで低温傾向と季節のメリハリがはっきりした気温変化であった。

○ 平成２３年１２月から平成２４年２月にかけて３ヵ月連続して月平均気温が低く萌芽時期が遅れたが、４月に入り気温が上昇し中旬以降 20℃を超す日が続いたため、茶では一気に生育が進み短期集中の生産となった。また果樹では平年並み～やや早い生育となり、結実肥大とも良好であった。

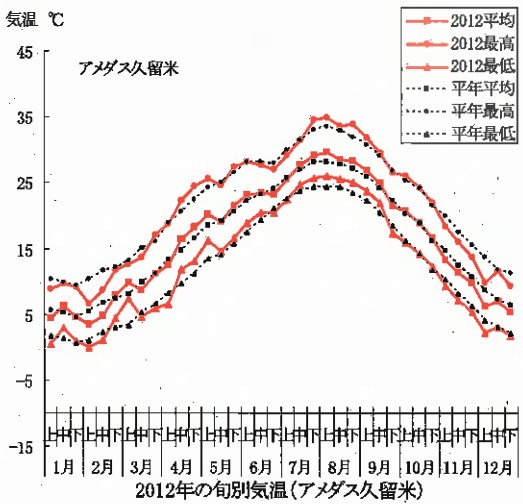
○ 梅雨入り後長雨による日照不足で果樹は肥大不良、病害の発生、施設果樹の着色不良がみられた

○ 夏はたびたび大雨となり、７月１１日から１４日の「平成２４年７月梅雨前線豪雨」は山間地全域で大きな被害をもたらし、特に黒木町笠原や、旧星野村の被害は甚大であった。

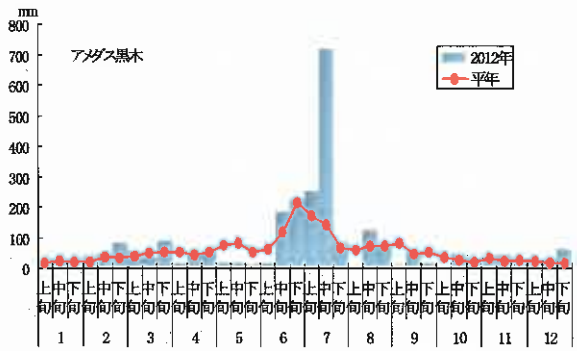
○ 梅雨明け以降、晴れて暑い日が多くなり 35℃を超える猛暑日が続く高温傾向で推移しミカン、カキ、キウイ等は全体的に小玉傾向であったが果実全般には内容、品質とも良好であった。



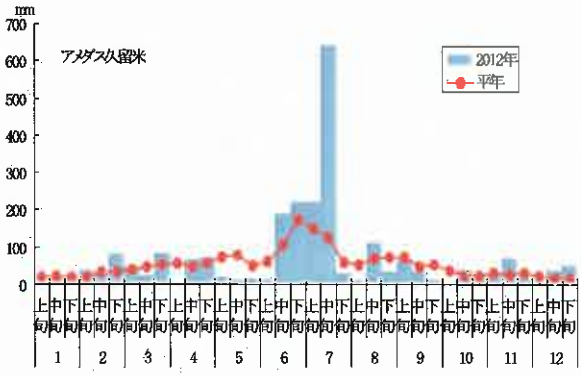
2012年の旬別気温(アメダス黒木)



2012年の旬別気温(アメダス久留米)



2012年の旬別降水量と平年値(アメダス黒木)



2012年の旬別降水量と平年値(アメダス久留米)

5　表彰事業の受賞実績

表彰事業名	部門	品目	賞区分	受賞者名	市町村
第 51 回農林水産祭	蚕糸・地域特産	経営（茶）	天皇杯	（有限会社）グリーンワールド八女	八女市
第 61 回全国農業コンクール	種芸	経営（茶）	農林水産大臣賞	（有限会社）グリーンワールド八女	八女市
第 66 回全国茶品評会	玉露	茶	農林水産大臣賞	堀川祐介	黒木町
平成 24 年度大日本農会第 96 回農事功績者表彰	花き	電照ギク	緑白綬有功章	大塚徳重	八女市
平成 24 年度全国優良経営体	集落営農	米	農林水産省経営局長賞	（農事組合法人）つねもち	筑後市
第 14 回全国果樹技術経営コンクール	果樹	ブドウ	農林水産省生産局長賞	溝田敬介	黒木町
平成 24 年度農山漁村女性・シニア活動表彰	女性起業・経営参画部門		林野庁長官賞	物産販売所「清流」	星野村

(有)グリーンワールド八女が天皇杯を受賞

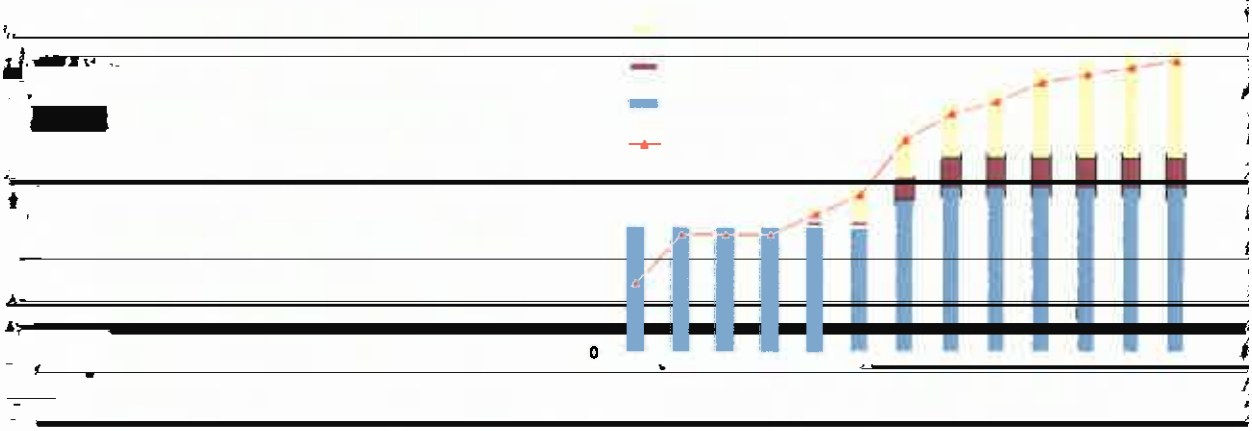
～茶を核とした大麦若葉との大規模複合経営と女性の感性を活かした商品開発～

1　受賞者の取組の経過と経営の現況

グリーンワールド八女は、個人で茶工場を経営していた茶農家３戸が、緑茶の生産・加工を行う法人として平成 12 年１月に設立され、平成 18 年からは、大麦若葉の生産・加工を事業に加えた。春季から秋季は茶園 22ha を、冬季は水田裏作の大麦若葉 40ha を管理することで乗用摘採機や大型荒茶加工施設の周年利用と周年雇用を実現し、茶を核

2　受賞者の特色

（１）荒廃茶園の再生と改良に伴う省力化の実現



（２）大規模経営での品質向上管理

とした複合経営を行っている。

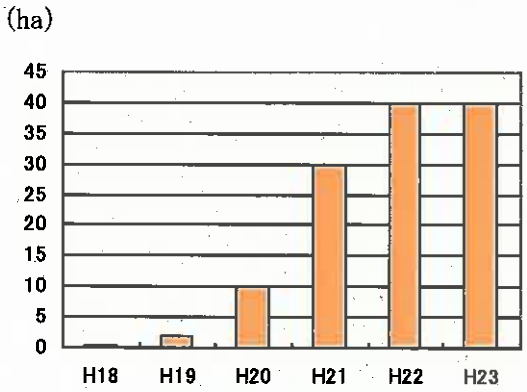
現在は、女性、後継者を含む役員５名とその家族で運営しており、青年の雇用も開

茶園チェックリスト

業と安定した品質管理を実現

（3）大麦若葉の導入による機械施設の周年利用と周年雇用体系の確立

茶の単一経営では、茶価が低下した場合の影響が大きく、収穫機・荒茶加工施設の操業期間が短期間にとどまるため、農閑期の補完作物として大麦若葉を導入。茶作業のない１～３月に、茶用の機械・施設を活用して大麦若葉の収穫・加工を行うことにより、機械施設の周年利用と減価償却の低減、年間を通した雇用が可能となっている。



大麦若葉の作付面積

茶の収穫

大麦若葉の収穫

○ 年間施設利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
摘採機	茶	茶	茶		茶		茶			大麦若葉	大麦若葉	大麦若葉
荒茶加工施設	茶	茶	茶		茶		茶			大麦若葉	大麦若葉	大麦若葉

（4）女性の感性を活かした商品開発

女性役員・社員の感性を活かし、食感、飲みやすさ、溶けやすさを追求した「おいしく毎日飲めるお茶や大麦若葉の新商品開発」を積極的に推進し、経営強化に繋がっている。

女性従業員の開発した商品

3　普及性と今後の発展方向

グリーンワールド八女が行っている荒廃茶園の再生整備は、地域における農地の受け皿組織として機能している。また、「八女茶」という高級茶産地の強みを活かしながらも、他作物を取り入れた複合経営により経営強化を図っているグリーンワールド八女は、茶を核とした複合経営のモデルとして、今後も地域農業のけん引役として活躍が期待されている。

6　実証ほ一覧

品　目	課題名	内　　容
水稲	春夏作農薬展示ほ	エーワン除草剤、ビルダーフェルテラチェス箱粒剤の効果検証
	品質改善・収量向上肥料展示ほ	ヒノヒカリ、元気つくし並びに夢つくしでの穂肥重点型緩効性一発肥料の検討　「LP2000T、エムコート077」
	水稲奨励品種決定試験	中山間地における奨励品種の選定「ちくし74号、ちくし82号」
麦	秋冬作農薬展示ほ	キックボクサー細粒剤F、シナジオ乳剤の効果検証
	麦奨励品種決定試験	大麦に係る奨励品種の選定　「ニシノホシ、はるしずく、西海皮69号、九州二条24号」
ナス	天敵実証ほ	スワルスキーカブリダニの導入試験
	新品種導入展示ほ	県育成品種「省太」の現地適応試験
トマト	夏期高温対策展示ほ	寒冷紗被覆試験
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	夏期高温対策展示ほ	寒冷紗被覆および防虫ネット巻上試験
キク	農薬展示ほ	プレバソンフロアブルのキクのハスモンヨトウ、オオタバコガに対する効果
	肥料実用化展示ほ	「王子の液肥」のキク栽培における切花に対する品質向上効果
	葉傷み防止対策実証ほ	収穫後のキクの葉傷み防止対策
	EOD試験ほ	日没後（EOD）の短時間加温が、スプレーギクの品質と生育に及ぼす影響および重油低減効果
	光源試験	CCFLやLEDのキク栽培における切花品質や生育に与える影響

7　現地活動情報

No.	タイトル	
1	花わさび収穫・加工体験交流会	地域係
2	茶手もみ競技大会の開催	特産係
3	八女新茶初入札会が開催	特産係
4	新規栽培者確保のための説明会の開催	野菜係
5	一輪の菊に想いを込めて	花き係
6	スプレーギク等の出荷量が増加！	花き係
7	アスパラガス改植事例を研修	野菜係
8	麦の収穫作業　順調に進む	水田農業係
9	八女特産　シンテッポウユリ出荷始まる！	花き係
10	今年一番の荒茶品質を競う	特産係
11	今がハウスモモの出荷最盛期	果樹係
12	おいしい新茶づくりを支援	特産係
13	イチゴの基本をおさえよう！	野菜係
14	麦種子の品質は良好	水田農業係
15	期待のスモモ「貴陽」の出荷始まる	果樹係
16	星野村　おばしゃんの店「清流」が優秀賞受賞	地域係
17	夏ギク栽培の技を競う！	花き係
18	お茶を通じたつながり	特産係
19	（有）「グリーンワールド八女」（八女市）が名誉賞（農林水産大臣賞）受賞	地域係
20	梅雨前線豪雨災害農業相談会開催	野菜花き課
21	女性農村アドバイザー現地研修会開催	地域係
22	平成24年度　第2回　イチゴ栽培管理基礎研修会開催	野菜係
23	トマト販売高が過去最高に！	野菜係
24	紅茶手づくり体験	特産係
25	八女地区農村女性グループ連絡研究会視察・交流会開催	地域係
26	キウイフルーツ「レインボーレッド」出荷始まる	果樹係
27	イチゴ栽培管理基礎研修会開催（厳寒期の管理を学ぼう！）	野菜係
28	良い香り！星野村のニオイヒバ	花き係
29	労使トラブルにご用心	地域振興課
30	農業青年クラブ筑後ブロック技術交換大会を開催	青年農業者育成班
[illegible]	[illegible]	特産係
[illegible]	[illegible]	[illegible]
32	高品質麦種子栽培への取り組み	水田農業係
33	平成２４年度大日本農会第９６回農事功績者表彰	花き係
34	上野焼秋の窯開きで八女茶をPR	特産係
35	若手茶生産者が緑茶をPR	特産係